

伝統文化を守り続けて40年。島田人形浄瑠璃芝居保存会の皆さんは頑張っています。

島田人形浄瑠璃芝居



県の無形民俗文化財に指定されている『島田人形浄瑠璃芝居』は、室町時代から受け継がれてきた光市が誇る文化遺産。この貴重な伝統文化を守り続けるため、昭和39年に「島田人形浄瑠璃芝居保存会」が結成され、今年で40周年を迎えました。

この間、関係者の皆さんが熱心な保存・継承活動を通じて、毎年8月4日と5日の奉納上演や全国各地での出張公演のほか、小中学生を含めた後継者の育成活動などにも精力的に取り組んでいます。

市では、こうした郷土の伝統文化を守り、後世に引き継いでいくため、文化財や民俗芸能などの保存・継承に取り組むとともに、市民の皆さんの活動の支援に努めることにしています。

島田人形浄瑠璃芝居の起源

約千三百年前に建立された島田4丁目熊野神社(市民ホール西隣)の境内に、その末社である松浦神社があり、そこは昔から地元の人から「祇園さま」と崇められていました。

室町時代のある年、島田地区一帯に疫病が流行しました。その平癒祈願として、キユウリに串をさし、これに着物をつけた人形を作り、「祇園さま」に人形芝居を奉納上演し、疫病退散を祈願したところ、疫病はたちまち治ったといわれています。

当時の人々は、「祇園さま」の神霊に感謝し、この地にあるかぎり、永遠に、この日(旧暦の6月14日、昭和39年から新暦の8月4日・5日)に人形芝居の奉納上演を誓ったといわれています。これが島田人形浄瑠璃芝居の起源となっています。

島田百軒

この地は、古くから「島田百軒」といわれ、氏子100戸がありました。このうち20戸から30戸が、代々世襲で400年の間、人形遣いや浄瑠璃語りを務めてきました。奉納芝居の経費は、春は麦、秋は米一升ずつを氏子が奉納し、賄ってきました。

貴重な人形と衣装

保存されている人形の首(かしら)や衣装には全国でも珍しい貴重なものも多く、国宝級の人形を作った文人人形師の名人「大江万造」(江戸時代後期)の作1点をはじめ、「笹屋喜作」(江戸時代後期)の作1点、「天狗屋久吉」の作12点、「人形富」・「由良亀」の作など、全国でも珍しい貴重な83点、また、衣装も江戸時代後期に作られた「源義家の直垂」など約70点があります。

保存会の精力的な取り組み

島田人形浄瑠璃芝居は、昭和32年3月に「山口県無形文化財」として



島田中学生を熱心に指導する保存会会長の原田さん

指定され、文化財保護法の改正により、昭和51年3月に「山口県無形民俗文化財」の指定を受けました。

「島田人形浄瑠璃芝居保存会」は、戦後の社会環境の変化に伴い、これまでの世襲制度を改め、昭和39年7月に島田地区の有志により結成。今日まで、会員や関係者の皆さんが熱心な保存・継承活動を通じて、人形や衣装の保存・補修とともに、毎年8月4日と5日の奉納上演や、全国各地での出張公演を精力的に行っています。また、小・中学生を含めた後継者の育成のため、研修や講習にも取り組んでいます。

市民ホールで奉納上演

昭和30年、熊野神社の境内に約30坪の舞台が建築されましたが、昭和47年の市民ホールの完成に伴い、同ホール内に人形の頭や衣装、諸道具などの保存庫を設置しました。また、奉納上演についても同ホールで行われるようになり、天候に左右されず上演を鑑賞できるようになりました。

市では、今後も、こうした郷土の伝統文化を守り、後世に引き継いでいくため、関係団体等のご協力をいただきながら、文化財や民俗芸能などの保存・継承に取り組むとともに、これらを支える市民活動の支援に努めることにしています。

島田人形浄瑠璃芝居保存会

結成40周年記念公演

日時 11月28日13時30分
会場 市民ホール・小ホール(入場無料)



島田人形浄瑠璃芝居保存会(原田秀明会長)は、山口県指定文化財の「島田人形浄瑠璃芝居」を保存・継承するため、昭和39年7月に保存会を結成し、今年で40周年を迎えました。

これを記念して、保存会では、次のとおり記念公演を開催します。市民の皆さんのご鑑賞、ご来場をお待ちしています。

また、当日は、市民ホールロビーにおいて「人形ふれあいコーナー」も開催しますので、お立ち寄りください。

芸題 「恋女房染分手綱 重の井子別れの段」、「伽羅先代萩 政岡忠義の段」
主催 島田人形浄瑠璃芝居保存会

人形ふれあいコーナー

日時 11月28日9時~16時
場所 市民ホール(ロビー)
内容 写真パネル展(保存会の歩み)、人形操りコーナー ほか

後援 光市教育委員会、光市観光協会
問合せ 生涯学習課08333743604